



2024年3月期 第2四半期決算説明会

代表取締役 社長 鈴木 俊宏

2023年11月7日

スズキ株式会社

(参考) 表紙画像

- ・ JMS(ジャパン モビリティ ショー)でのプレゼンテーションの様子
「世界中に、ワクワクの、アンサーを。」

2024年3月期 第2四半期決算

■ 上期（4～9月期）総括

▶ 売上高、営業利益、経常利益 …上期として過去最高

・ 為替円安の追い風
・ 原材料価格の落ち着き

+

・ 半導体不足を克服、生産正常化を維持
・ 価格改定含む売上構成変化等の改善

■ 第2四半期（7～9月期）総括

▶ 7～9月期の営業利益は1,297億円 …4～6月期に比べ約300億円の増益

台数増加、売上構成変化等の改善

>
カバー

将来への種まき（成長投資）を加速
（研究開発費・減価償却費の増）

品質改善の取組み（品質関連費用の削減）

- ・ 「現場・現物・現実」の行動理念のもと、様々な取組みについてしっかりマネジメント
- ・ 設備投資や研究開発費など成長投資を加速するなかでも収益を拡大
- ・ 一過性に終わらせることなく、今後も継続

鈴木より、決算の総括について、
主な取組みを中心にお話しさせていただきます。

上期6ヵ月間の売上高、営業利益、経常利益は、過去最高となりました。

これは、為替や原材料価格といった追い風に加え、

- ・ 調達改善努力などによる生産正常化
- ・ 新型車投入によるミックス改善
- ・ 適正な販価設定等の収益対策

を行った結果であると考えています。

特に、7～9月期の営業利益は、

4～6月期に比べ約300億円の増益となる、1,297億円となりました。

これは、

- ・ 「現場・現物・現実」というスズキの行動理念※のもと、
営業、生産、調達、品質など様々な取組みについて、
しっかりとマネジメントできた結果、
- ・ 成長投資を加速するなかでも収益を拡大することができた

と評価しています。

これらを一過性に終わらせることなく、継続していきたいと考えています。

※スズキの行動理念…小・少・軽・短・美、中小企業型経営、現場・現物・現実（三現主義）

2024年3月期通期予想

- 上期実績および下期計画のアップデートを踏まえ、上方修正を実施
- 営業利益は過去最高の4,300億円を見込む（これまでの過去最高は18/3期の3,742億円）
- 主な前提
 - ▶ 販売台数：各市場の状況、先行きの不透明さを織り込み済み
 - ▶ 研究開発費や固定費
 - ・ 上期 … 業務推進を最優先に費用を織り込んだものの、計画を若干下回った（計画に対し悪い増益）
 - ・ 下期 … 引き続き業務推進を最優先に費用を織り込んだ

・ 社内でのPDCAを強化し、
 ・ 業務計画の進捗をきめ細やかにフォロー



将来への種まき（成長投資）を
 着実に実施

- 主なリスク
 - ▶ ウクライナ情勢に加え、パレスチナ情勢が深刻化。世界情勢の不安定さ増す

通期業績予想については、今回、通期予想を上方修正し、
 営業利益は過去最高の4,300億円を見込みました。

通期予想の前提のなかでは、下期の取組みとして、
 特に研究開発費や固定費をしっかりと見込んでいます。

これは、

「2030年に向けた成長戦略」を実現していくために必要な「将来への種まき」であり、
 PDCAをしっかりと回し、業務計画の推進を最優先に取り組んでいます。

株主還元

・株主還元は、重要な経営課題の一つであり、
継続的かつ安定的な配当を方針とし、総還元性向の向上を検討していく

- 配当
 - ・中間配当は1株当り55円（前期の中間配当50円から+5円増配）
- 自己株式取得
 - ・上期に200億円（還元性向8.3%）を実施

最後に、株主還元についてご説明いたします。

配当につきましては、継続的かつ安定的な配当を方針としています。
その方針を踏まえ、
中間配当は、前期から5円増配となる、1株当り55円とさせていただきました。

私からの決算の総括は以上となります。

続いて、決算の詳細について、長尾より、説明させていただきます。

2024年3月期 第2四半期決算説明会

取締役 専務役員 渉外担当 長尾 正彦

2024年3月期 第2四半期決算	(6～15)
総括	6
四半期推移	7
営業利益増減要因	8
事業別セグメント	9
四輪台数実績	10～14
二輪台数実績	15
通期業績予想	(16～20)
総括	16
営業利益増減要因	17～18
四輪・二輪台数情報	19～20

長尾より決算の詳細について説明させていただきます。

	(億円)	当第2四半期 ('23/4-9)	前年同期 ('22/4-9)	増 減		補足 ^{※1}
					増減率	
連結 業績	売上高	25,644	22,175	+3,469	+15.6%	過去最高、3期連続増収
	営業利益 (利益率)	2,295 (8.9%)	1,643 (7.4%)	+651	+39.6%	過去最高、3期連続増益
	経常利益 (利益率)	2,410 (9.4%)	1,923 (8.7%)	+486	+25.3%	過去最高、3期連続増益
	四半期純利益 ^{※2} (利益率)	1,293 (5.0%)	1,151 (5.2%)	+142	+12.4%	過去2位、3期連続増益
為替 レート	米ドル	141円	134円	+7円	+5.2%	
	ユーロ	153円	139円	+15円	+10.6%	
	インドルピー	1.72円	1.72円	-	-	
世界 販売	四輪車	1,535千台	1,463千台	+72千台	+4.9%	
	二輪車	958千台	966千台	▲8千台	▲0.8%	
配当	一株当たり 中間配当金	55円	50円	+5円		中間配当として過去最高

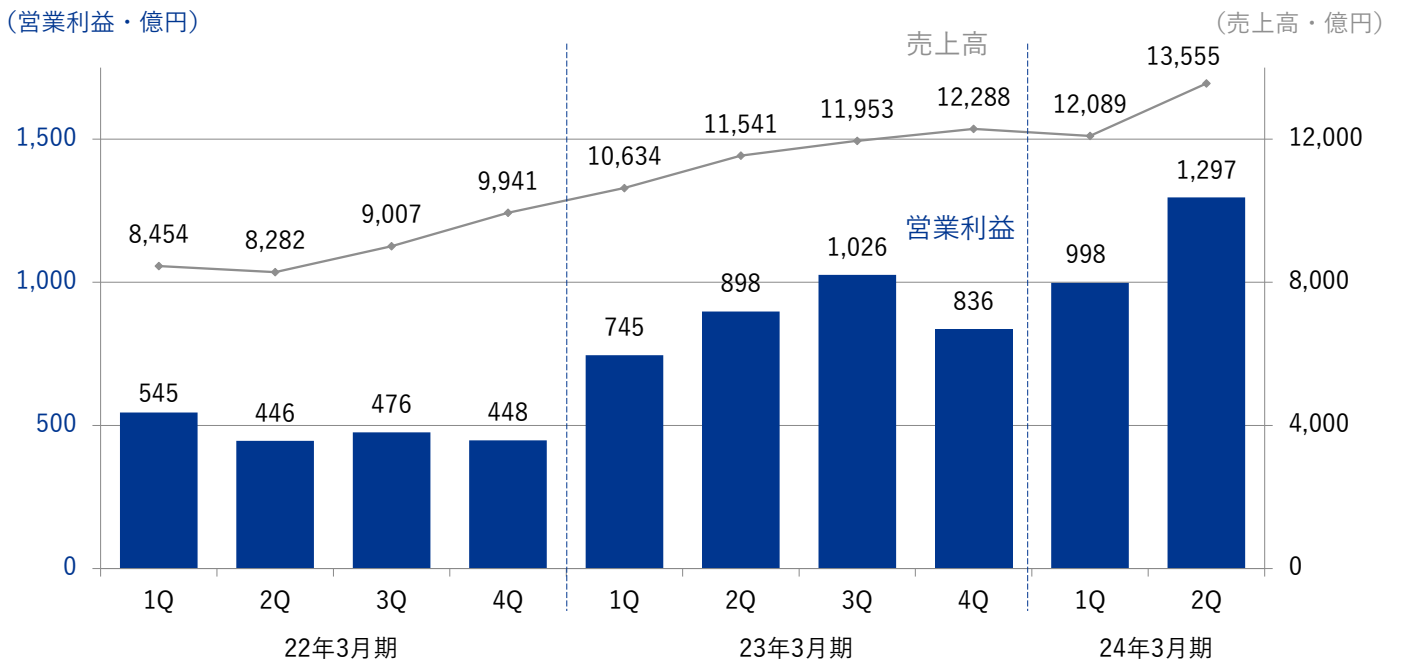
※1 補足のコメントは第2四半期累計としての評価 ※2 四半期純利益は親会社株主に帰属する四半期純利益

© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved.

6 / 35

最初に今回の決算の総括をいたします。

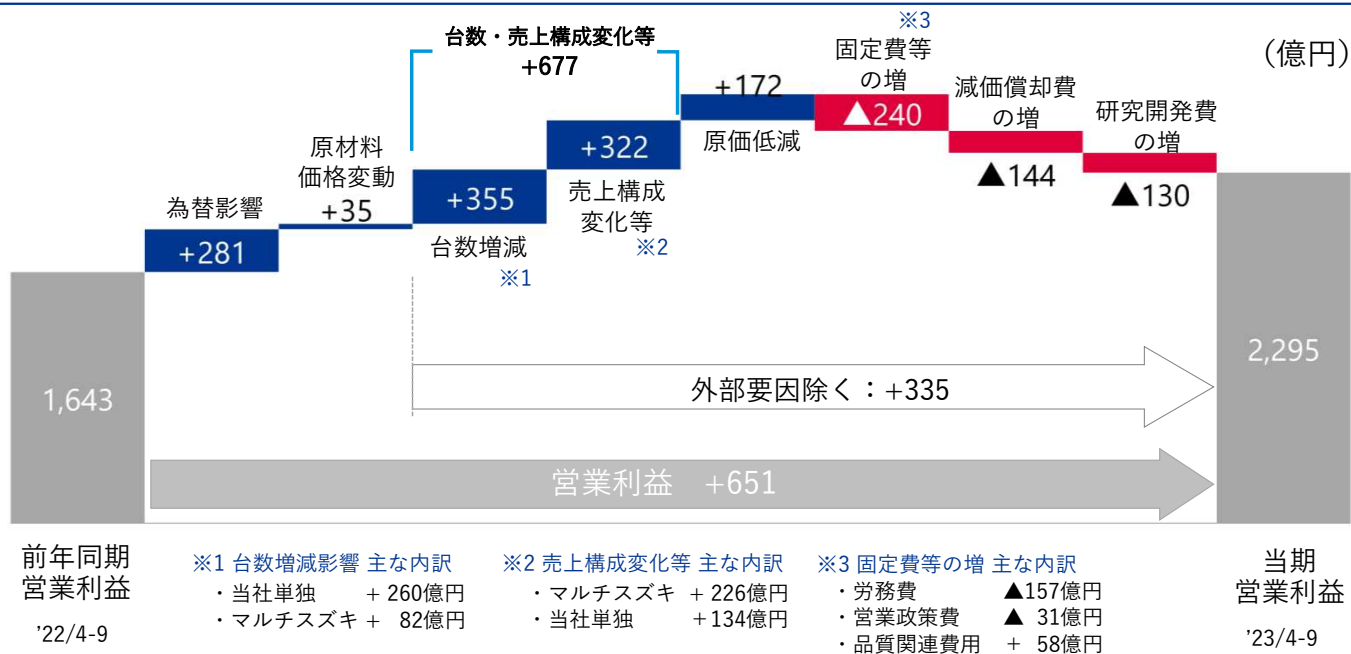
業績はご覧の通り、
売上高、営業利益、経常利益の3項目は、
上期として過去最高となりました。



© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved.

四半期毎の業績についてご説明させていただきます。

8月以降、半導体不足の影響が解消し、
 生産が正常化したこと等から、
 売上高、営業利益とも、四半期として過去最高となりました。



前年同期と比較した営業利益の増減要因はご覧の通りです。

外部要因としては、

- ・ 為替影響で281億円の増益、
- ・ 原材料価格変動については貴金属価格の低下等により35億円の増益となりました。

外部要因を除く項目では、増益要因として、

- ・ 台数増減で355億円
- ・ 売上構成変化等で322億円
- ・ さらに、原価低減により172億円の増益となりました。

減益要因としては、

- ・ 固定費等の増により240億円
- ・ 減価償却費の増で144億円
- ・ さらに、研究開発費の増により130億円の減益となりました。

なお、固定費等の内、

- ・ 品質関連費用は、品質改善の取組みにより削減でき、58億円の増益要因となりました。

事業セグメント別業績

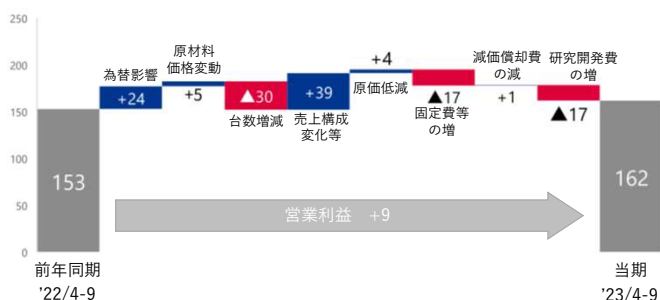
単位：億円

	'23/4-9			'23/7-9						
	売上高		営業利益		営業利益率					
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比				
四輪	23,179	+18%	1,972	+54%	8.5%	12,313	+20%	1,138	+59%	9.2%
二輪	1,797	+2%	162	+6%	9.0%	933	+4%	97	+40%	10.4%
マリン	613	▲11%	146	▲26%	23.8%	279	▲19%	54	▲49%	19.2%
その他	55	▲3%	15	+22%	27.9%	30	+1%	8	+32%	27.4%
連結計	25,644	+16%	2,295	+40%	8.9%	13,555	+17%	1,297	+44%	9.6%

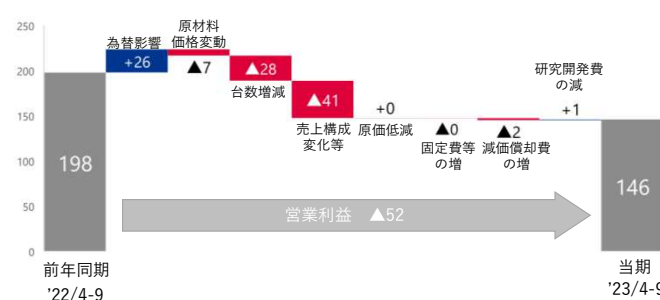
四輪事業



二輪事業



マリン事業



© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved. 9 / 35

次に事業別の業績についてご説明いたします。

四輪事業につきましては、
台数増加や売上構成変化等の改善により、増収増益となりました。

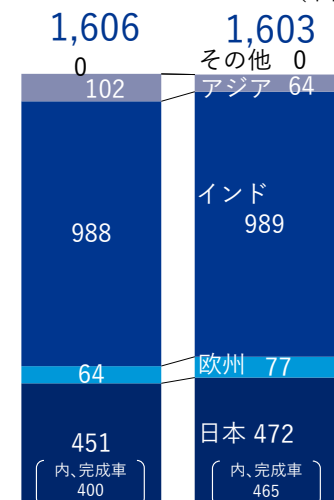
二輪事業につきましては、増収増益となりました。
特に7～9月期の営業利益率は10.4%と高水準となりました。

マリン事業につきましては、
北米市場の減速に伴い、減収減益となりました。

生産実績

▲2千台 (▲0.1%)

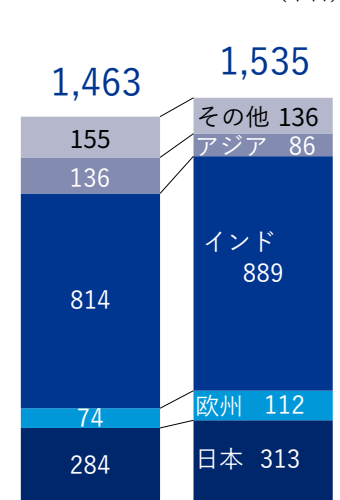
(千台)



販売実績

+72千台 (+4.9%)

(千台)



● 当期の世界販売

	(千台)	台数	前年同期比	
世界販売		1,535	+72	+4.9%
日本		313	+29	+10.2%
欧州		112	+38	+50.6%
インド		889	+75	+9.2%
アジア (除インド)		86	▲51	▲37.0%
インドネシア		38	▲4	▲9.5%
パキスタン		18	▲39	▲68.0%
タイ		6	▲3	▲34.2%
その他		23	▲4	▲15.0%
その他		136	▲19	▲12.2%

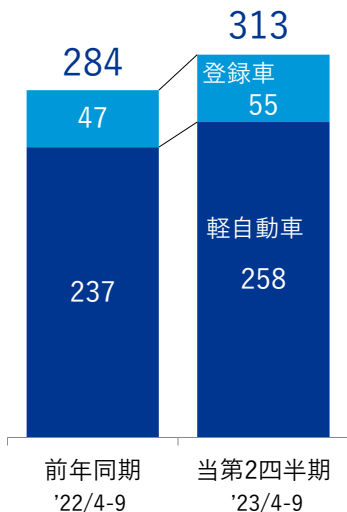
次に生産、販売の状況についてご説明いたします。

まず、四輪車につきまして、
生産台数は、
日本や欧州で増加しましたが、
パキスタン等での減産により、全体では前年割れとなりました。

販売台数は、
インド、欧州、日本での増加により、全体でも前年同期を上回りました。

第2四半期実績

+29千台 (+10.2%)
(千台)



● モデルミックスが改善

- ・ 8月以降、半導体不足の影響が解消
- ・ それに伴い、全体の生産・販売台数の増加に加え、比較的高価格帯のモデルの生産販売が増加

7-9月期 販売台数 (千台)	<前年同期比>		<前四半期比>	
	当7-9月期	前7-9月期比	当4-6月期比	前4-6月期比
軽自動車	136	124 +12	121	+15
スペーシア	30	24 +6	27	+3
ハスラー	24	17 +8	16	+8
その他	82	84 ▲2	78	+3
登録車	28	26 +2	27	+1



● 価格改定

- ・ 今期より、仕様変更に合わせて価格改定を実施
- ・ 仕様・装備の充実によるコストアップ分に加え、原材料価格高騰分を反映

日本の販売実績につきましては、
8月以降、半導体不足が解消したこと等により、
販売台数が増加しました。

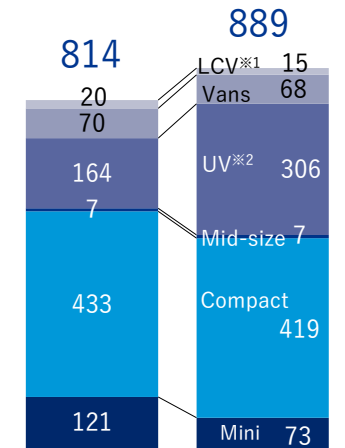
加えて、7~9月期は、部品供給の回復に伴い、
スペーシアやハスラー等の高価格帯のモデルの生産が増加したことにより、
モデルミックスが改善しました。

また、今期より、仕様変更に合わせて、
仕様・装備の充実によるコストアップ分に加え、
原材料価格高騰分を反映した価格改定を実施しています。

第2四半期実績

+75千台 (+9.2%)

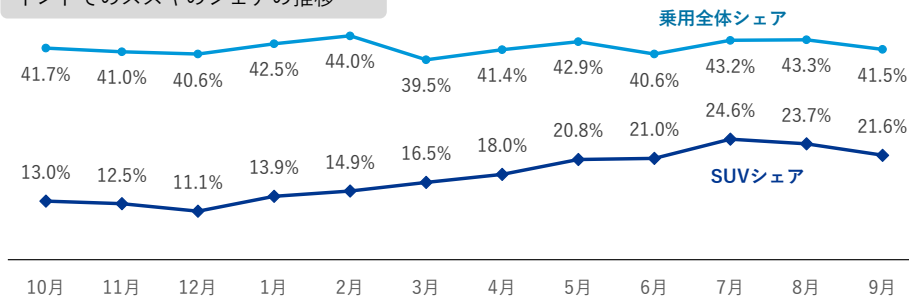
(千台)



● 当期のインド販売

・SUVモデルを積極的に投入、SUVセグメントでシェアトップ

インドでのスズキのシェアの推移



インド四輪事業のトピックス等につきましては、2023年10月24日に実施いたしましたJMS（ジャパンモビリティショー）のカンファレンス資料に詳細がございます。
※資料は当社ホームページ「IR情報トップ>IRライブラリー>投資家向け説明会」に掲載しています

前年同期
'22/4-9

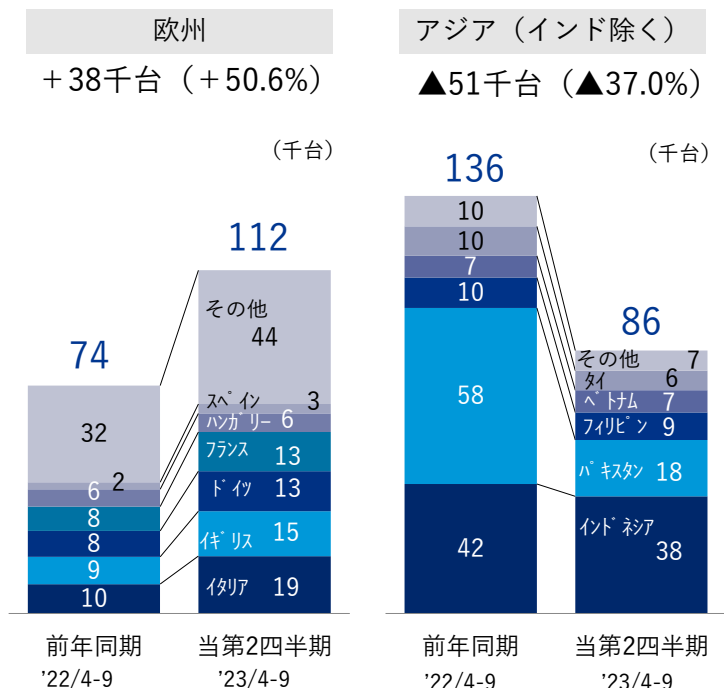
当第2四半期
'23/4-9

注. 左側グラフは商用車含む卸販売実績、OEMを除く ※1 LCV=Light Commercial Vehicles ※2 UV=Utility Vehicles

© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved. 12 / 35

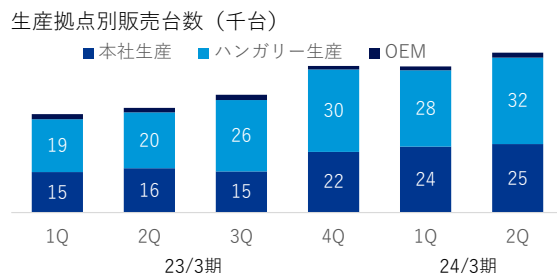
当期は、昨年からSUVモデルを積極的に投入した効果により、SUVセグメントでシェアトップとなりました。

なお、カーボンニュートラルに向けた取組み等、インド四輪事業のトピックスにつきましては、10月24日実施の「ジャパンモビリティカンファレンス」の資料に詳細がございます。



● 欧州トピックス

- ・ 日本生産車の供給が回復



● アジアトピックス

- ・ パキスタンでは、部品輸入規制の緩和に伴い、少量生産ながらも安定した操業に努める



© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved. 13 / 35

続いて、欧州の販売状況です。

前年同期は、

- ・ 半導体不足 および船舶不足による供給面の問題がありました。

当期は、

- ・ 日本 およびハンガリーでの生産が回復したこと、
- ・ 船舶を確保していることにより、販売が拡大しました。

インド以外のアジアにつきましては、

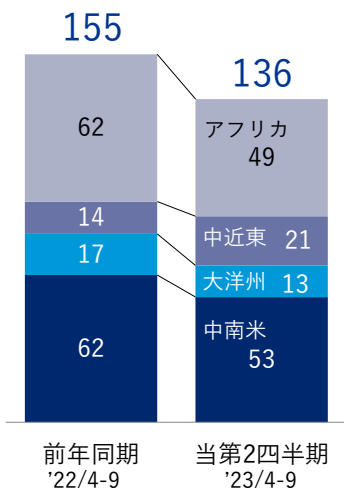
パキスタンにて、

- ・ 上期の販売は、外貨不足による部品の輸入規制に伴い、主要モデルのアルト等が生産できず、販売減となりました。
- ・ なお、現在は、外貨の制限は依然継続しているなか、輸入規制が緩和されたことに伴い、少量生産ながらも、安定した操業ができるよう努めている状況です。

第2四半期実績

▲19千台 (▲12.2%)

(千台)



● 当期の販売

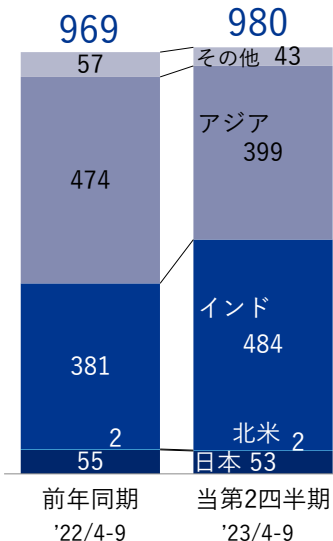
(千台)	台数	前年同期比	
アフリカ	49	▲13	▲20.4%
南アフリカ	25	▲1	▲4.0%
アンゴラ	6	+2	+67.8%
コートジボワール	6	+1	+15.8%
エジプト	3	▲7	▲69.2%
エチオピア	2	▲6	▲73.5%
中近東	21	+7	+52.3%
サウジアラビア	10	+5	+113.7%
大洋州	13	▲4	▲23.2%
オーストラリア	9	▲3	▲27.0%
中南米	53	▲9	▲15.0%
メキシコ	18	▲3	▲15.0%
チリ	8	▲2	▲15.9%
コロンビア	5	▲6	▲57.4%

その他地域の販売につきましては、アフリカ、大洋州、中南米で販売台数が減少しました。

アフリカの販売減少につきましては、エチオピアとエジプトにて、外貨規制に伴う輸入制限の影響がありました。

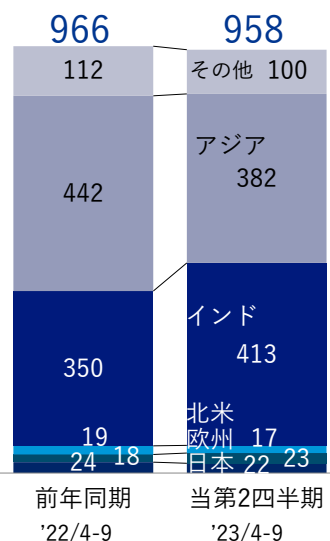
生産実績

+11千台 (+1.1%)
(千台)



販売実績

▲8千台 (▲0.8%)
(千台)



● 当期の世界販売

(千台)	台数	前年同期比	
世界販売	958	▲8	▲0.8%
日本	22	▲2	▲9.9%
欧州	23	+6	+31.4%
北米	17	▲2	▲10.9%
インド	413	+62	+17.8%
アジア (除インド)	382	▲59	▲13.4%
中国	229	▲16	▲6.7%
フィリピン	80	▲19	▲19.1%
その他	74	▲24	▲24.6%
その他	100	▲12	▲10.8%
中南米	91	▲11	▲10.4%
その他	9	▲2	▲14.5%

© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved. 15 / 35

二輪車につきましては、

- ・インドは拡大しましたが、
 - ・中国およびアセアン市場の減速により、
- 全体では、生産・販売ともに前年並みとなりました。

(億円)	当期 ('23/4-'24/3)	前期 ('22/4-'23/3)	増 減		補足	前回予想(8月時点)との比較		
				増減率		前回予想	増減	
連結 業績	売上高	52,000	46,416	+5,584	+12.0%	過去最高 3期連続増収	50,000	+2,000
	営業利益 (利益率)	4,300 (8.3%)	3,506 (7.6%)	+794	+22.7%	過去最高 2期連続増益	3,600 (7.2%)	+700
	経常利益 (利益率)	4,500 (8.7%)	3,828 (8.2%)	+672	+17.6%	過去最高 4期連続増益	3,700 (7.4%)	+800
	当期純利益※ (利益率)	2,400 (4.6%)	2,211 (4.8%)	+189	+8.5%	過去最高 4期連続増益	2,100 (4.2%)	+300
為替 レート	米ドル	141円	136円	+5円	+4.0%		134円	+7円
	ユーロ	152円	141円	+11円	+7.8%		148円	+4円
	インドルピー	1.72円	1.70円	+0.02円	+1.2%		1.64円	+0.08円
世界 販売	四輪車	3,188千台	3,000千台	+188千台	+6.3%		3,181千台	+7千台
	二輪車	1,880千台	1,867千台	+12千台	+0.7%		1,919千台	▲39千台
配当	一株当たり 年間配当金	-	100円	-	-	-	100円以上	-

※ 当期純利益は親会社株主に帰属する当期純利益

© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved. 16 / 35

通期業績予想についてご説明いたします。

上期実績 および 経営環境の変化を踏まえ、
業績予想を見直しました。

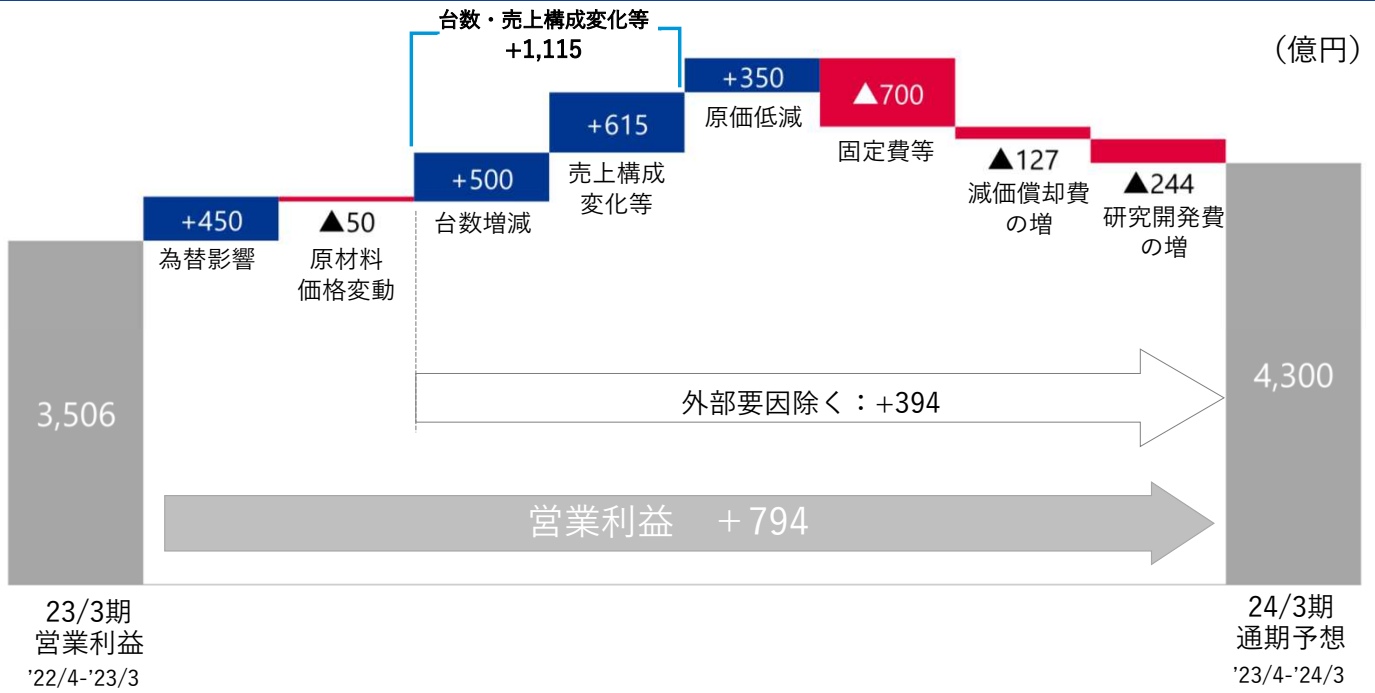
- ・ 為替前提は、円安方向に見直しました。
- ・ 台数見通しは、上期実績、および今後の市場見通しを反映し、
四輪車・二輪車ともに見直しました。

その結果、

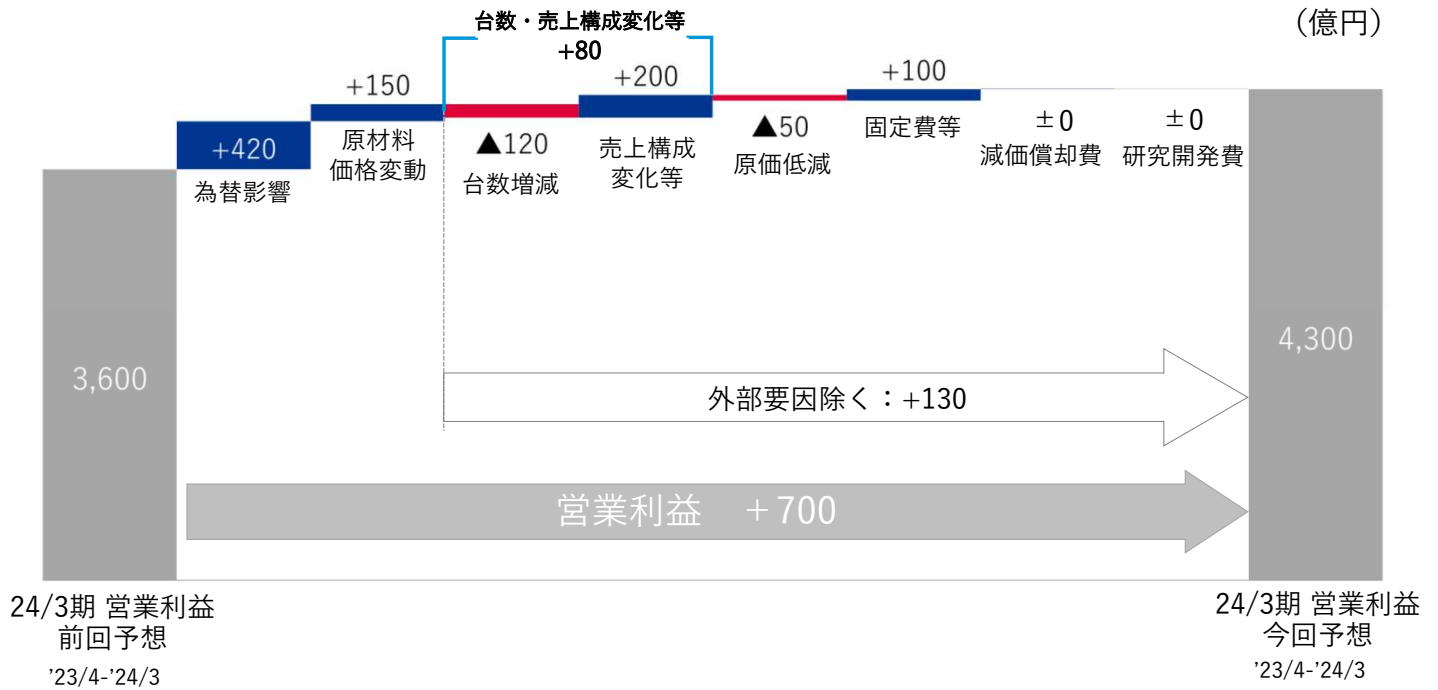
- ・ 売上高は5兆2,000億円
- ・ 営業利益は4,300億円

へ、それぞれ上方修正しました。

売上高および全ての利益項目において、過去最高となる見込みです。



前期に対する 営業利益の増減要因はご覧の通りとなります。



前回予想からの増減について、ご説明いたします。

外部環境の変化については、

- ・ 為替影響420億円
- ・ 原材料価格変動150億円

と、570億円の増益を見込んでいます。

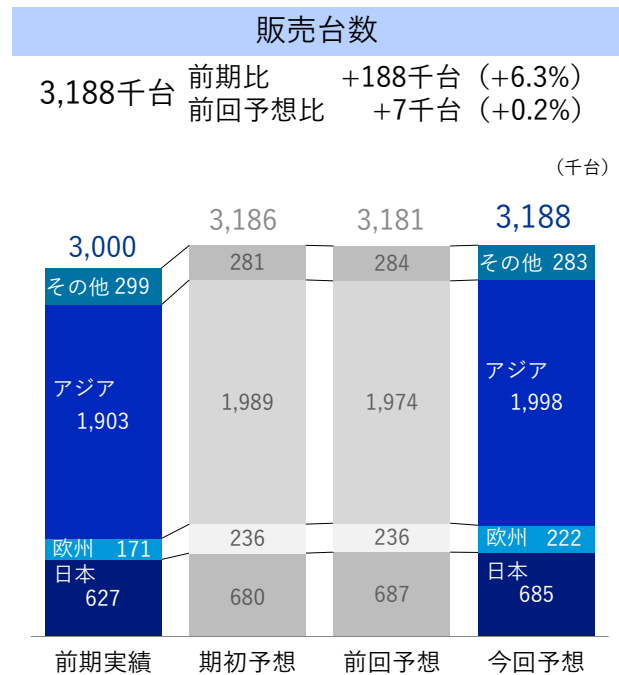
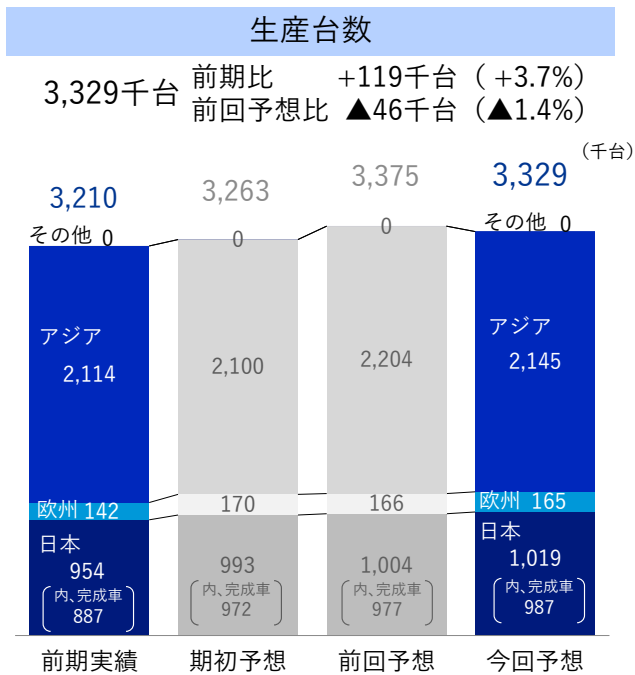
外部環境以外の要因につきましては、

- ・ インドでの四輪車のミックス改善等により、売上構成変化等で200億円
- ・ 固定費等については主に上期の使用状況を反映したことで100億円の増益を見込んでいます。

これにより、台数減と原価低減の減益分をカバーし、外部要因を除く実質的な増益としては130億円を見込みます。

以上、前回予想から合計700億円の上方修正となります。

なお、期初計画時の営業利益見通し3,300億円に対しては、前回の修正と併せて、ちょうど1,000億円の上方修正となります。

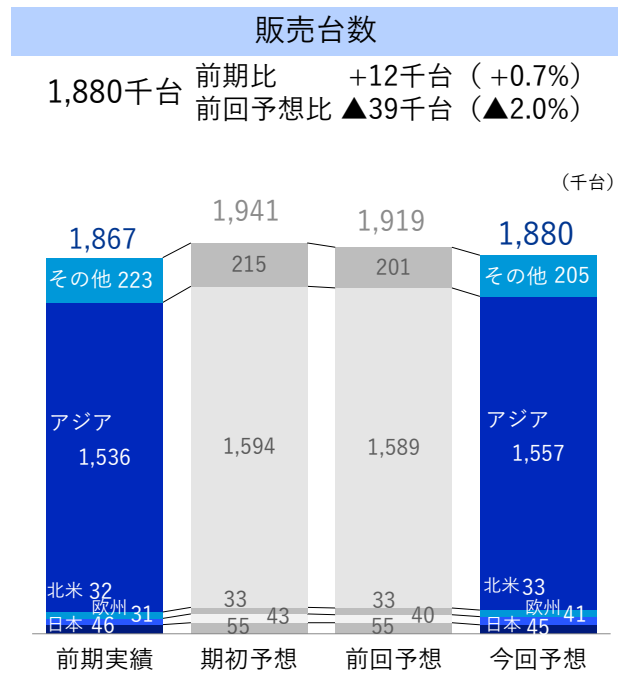
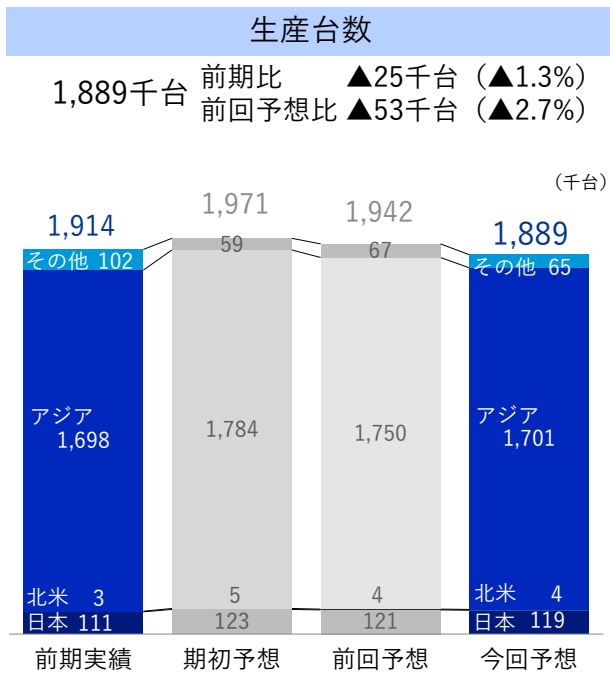


© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved.

最後に、台数の見直しについてご説明いたします。

四輪車につきましては、

- ・生産台数は46千台下方修正しました。
- ・販売台数はインド等で見直し、7千台上方修正しました。



続いて、二輪車の状況です。

- ・生産台数につきましては、世界生産で53千台
 - ・販売台数につきましては、世界販売で39千台
- それぞれ下方修正しました。

以上で、第2四半期決算の説明を終わらせていただきます。

なお、資料の次ページ以降に、補足資料として、売上高の内訳等のデータを掲載していますので、併せてご覧いただければと思います。

ご清聴ありがとうございました。

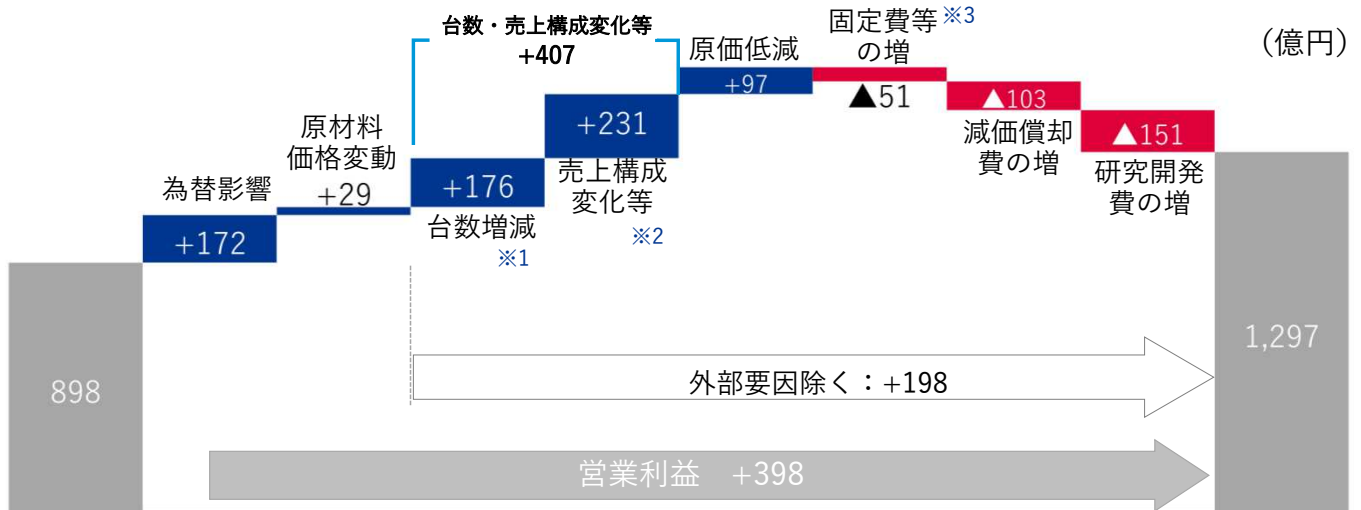
補足資料

2024年3月期 第2四半期決算 | 売上高の状況



(億円)	四輪			二輪			マリン			その他			合計			増減内訳	
	当期	前期	増減	当期	前期	増減	当期	前期	増減	当期	前期	増減	当期	前期	増減	為替影響	台数増減
国内計	5,940	5,395	+545	110	132	▲21	19	19	+0	55	57	▲2	6,124	5,602	+522		+548
自 社	5,445	4,965	+480	110	132	▲21	19	19	+0	55	57	▲2	5,629	5,172	+457		
O E M	495	430	+65										495	430	+65		
海外計	17,239	14,276	+2,963	1,687	1,627	+59	595	669	▲75				19,520	16,573	+2,947	+425	+982
欧州	2,898	1,683	+1,215	248	207	+40	99	132	▲33				3,246	2,023	+1,223	+305	+1,037
北 米	3	3	▲1	231	265	▲34	325	387	▲62				559	655	▲96	+25	▲66
アジア	11,611	10,087	+1,524	895	855	+40	68	52	+17				12,574	10,994	+1,580	▲39	+155
インド	10,239	8,227	+2,012	569	445	+123	4	4	+0				10,812	8,676	+2,136		+721
〃以外	1,371	1,860	▲488	326	410	▲83	64	48	+16				1,762	2,318	▲555	▲39	▲566
その他	2,727	2,503	+224	313	300	+12	102	99	+3				3,142	2,902	+240	+133	▲144
総合計	23,179	19,671	+3,508	1,797	1,759	+38	613	688	▲75	55	57	▲2	25,644	22,175	+3,469	+425	+1,529
内、為替換算影響			+350			+49			+25								+425

注. 当期…2023年4~9月期、前期…2022年4~9月期、北米…米国・カナダ、北米四輪車…部品用品等



前年同期
営業利益
'22/7-9

※1 台数増減影響 主な内訳
 ・当社単独 + 128億円
 ・マルチスズキ + 48億円

※2 売上構成変化等 主な内訳
 ・当社単独 + 114億円
 ・マルチスズキ + 95億円

※3 固定費等の増 主な内訳
 ・労務費 ▲ 72億円
 ・営業政策費 ▲ 17億円
 ・品質関連費用 + 71億円

当期
営業利益
'23/7-9

	当第2四半期 ('23/4-9)	前年同期 ('22/4-9)	前年同期比 増減		営業利益 為替影響	
					感応度※2	影響額
ユーロ	153円	139円	+15円	+10.6%	+12億円	+132億円
メキシコペソ	8.13円	6.66円	+1.47円	+22.1%	+4億円	+96億円
ポンド	178円	163円	+15円	+9.0%	+4億円	+40億円
米ドル	141円	134円	+7円	+5.2%	+7億円	+37億円
インドルピー	1.72円	1.72円	-	-	+19億円	-
南アフリカランド	7.56円	8.23円	▲0.67円	▲8.1%	+2億円	▲20億円
パキスタンルピー	0.49円	0.65円	▲0.16円	▲24.6%	+1億円	▲24億円
その他※1	-	-	-	-	+7億円	+21億円
営業利益為替影響額 合計					+58億円	+281億円

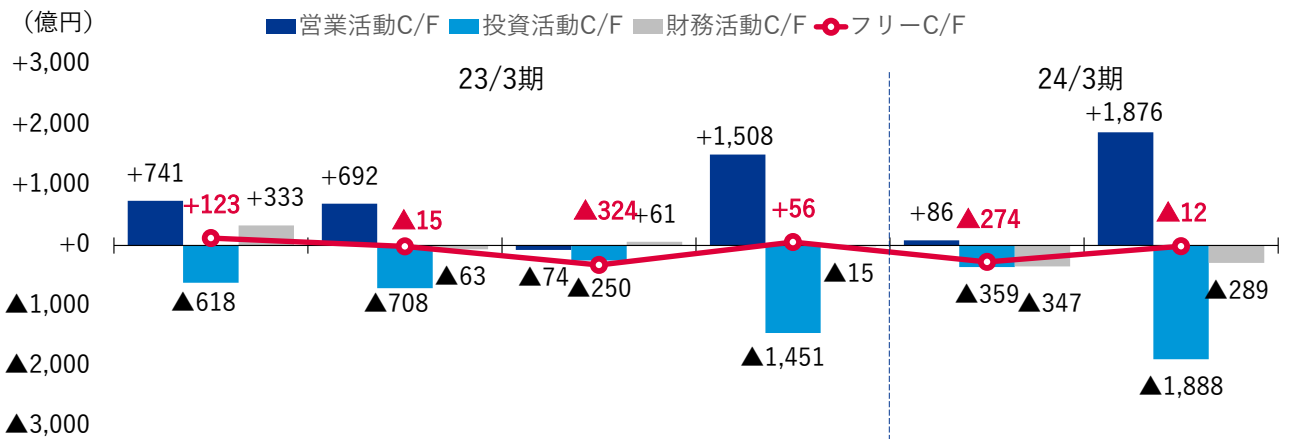
※1 その他…影響額+21億円のうち、ポーランドズロチ+13億円、インドネシアルピア+5億円 ほか

※2 感応度…各通貨のレートが前第2四半期から1% 円安方向に動いた際の営業利益影響額

	当期 (‘23/4-9)	前年同期 (‘22/4-9)	増減
当社単独	290億円	329億円	▲39億円
子会社	1,058億円	988億円	+69億円
設備投資	1,347億円	1,317億円	+30億円
減価償却費	925億円	781億円	+144億円
研究開発費	1,084億円	954億円	+130億円

	当期末 (‘23/9末)	前年同期		前期末比較	
		(‘22/9末)	増減	(‘23/3末)	増減
有利子負債残高	7,672億円	7,441億円	+231億円	7,638億円	+34億円
連結子会社数	118社	119社	▲1社	120社	▲2社
持分法適用関連会社数	31社	32社	▲1社	32社	▲1社
従業員数	72,444人	70,746人	+1,698人	70,012人	+2,432人

2024年3月期 第2四半期決算 | キャッシュフロー四半期推移



項目	23/3期				24/3期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
営業C/F	+741	+692	▲74	+1,508	+86	+1,876
投資C/F	▲618	▲708	▲250	▲1,451	▲359	▲1,888
フリーC/F	+123	▲15	▲324	+56	▲274	▲12
財務C/F	+333	▲63	+61	▲15	▲347	▲289
(内、配当金支払額 [※])	(▲225)	(▲136)	(▲243)	(+2)	(▲245)	(▲203)
キャッシュ残高	9,215	9,171	8,740	8,821	8,499	8,230

※非支配株主への配当金の支払額を含む。

2024年3月期 第2四半期決算 | 所在地別業績

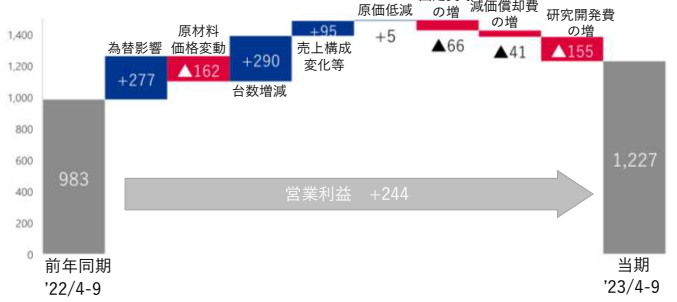


所在地セグメント別業績

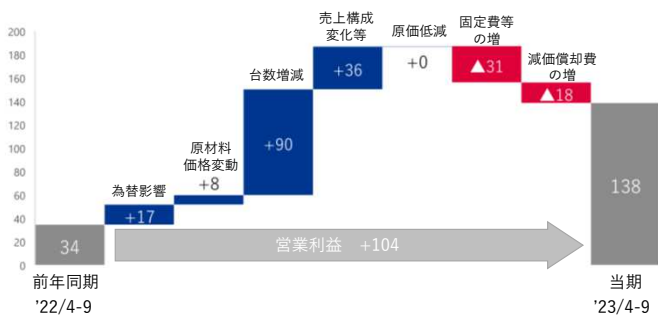
単位：億円

	'23/4-9			'23/7-9						
	売上高		営業利益		売上高		営業利益			
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比			
日本	13,425	+17%	1,227	+25%	9.1%	6,977	+18%	575	+27%	8.2%
欧州	4,416	+62%	138	+302%	3.1%	2,298	+62%	53	+349%	2.3%
アジア	14,227	+14%	1,238	+91%	8.7%	7,653	+18%	804	+91%	10.5%
その他	1,980	▲3%	73	▲42%	3.7%	980	▲2%	24	▲49%	2.5%
連結計	25,644	+16%	2,295	+40%	8.9%	13,555	+17%	1,297	+44%	9.6%

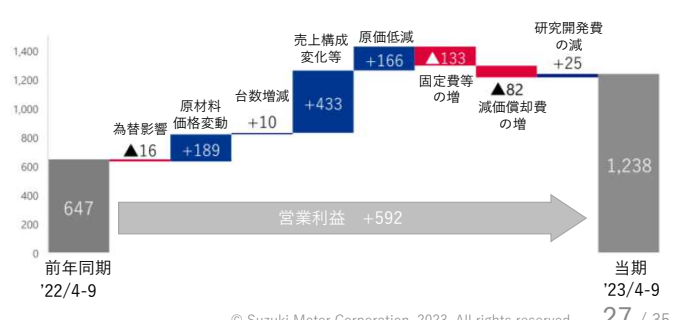
日本



欧州



アジア



© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved.

	ルピー建 (億ルピー) ※1			円換算額 (億円)			
	当第2四半期	前年同期	増減	当第2四半期	前年同期	増減	
連 結 業 績	売上高	6,639	5,383	+1,255	11,418	9,260	+2,159
	営業利益※2 (利益率)	623 (9.4%)	331 (6.1%)	+292	1,072 (9.4%)	569 (6.1%)	+503
	税前利益 (利益率)	808 (12.2%)	403 (7.5%)	+405	1,390 (12.2%)	692 (7.5%)	+697
	税後利益 (利益率)	629 (9.5%)	315 (5.8%)	+314	1,082 (9.5%)	542 (5.8%)	+540
	為替レート	1.72円	1.72円	-			
	卸 販 売	国内販売※3	918千台	853千台	+65千台		
輸出※3		133千台	133千台	▲0千台			
合計		1,050千台	985千台	+65千台			

※1. ルピー建は、10月27日付でマルチ・スズキ・インドシア社が発表した連結業績値

※2. 営業利益は次式により算出 営業利益 = Sales of product + Other operating revenues - Total Expenses + Finance costs

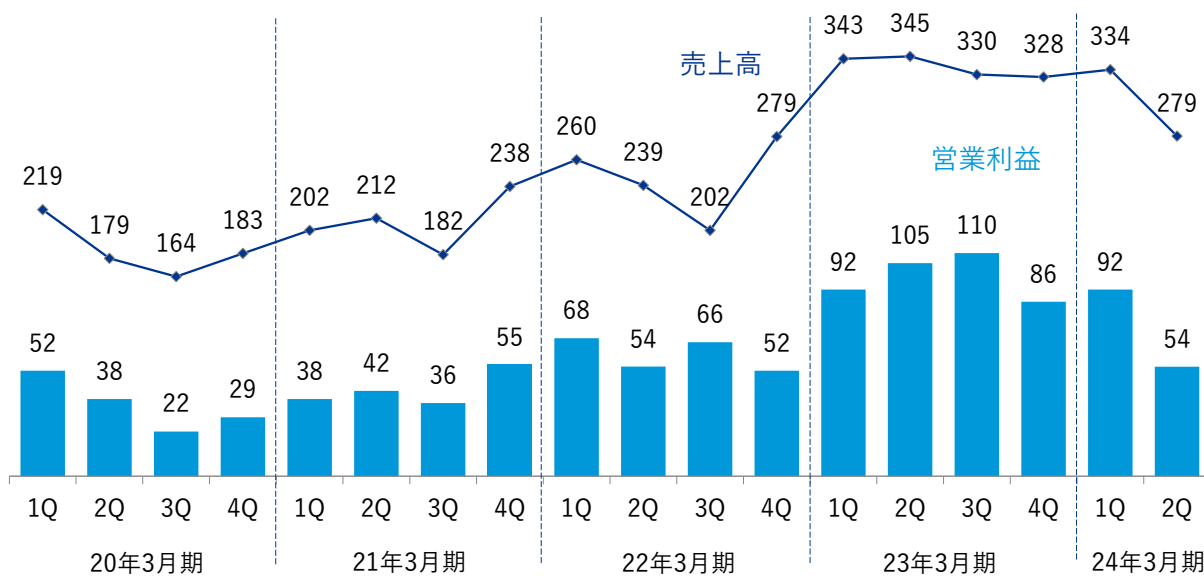
※3. 国内販売および輸出はOEMを含む

注. マルチ・スズキ・インドシア社はIndAS (インド版IFRS) に基づき会計処理をしており、本数値はあくまでも参考値

© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved.

28 / 35

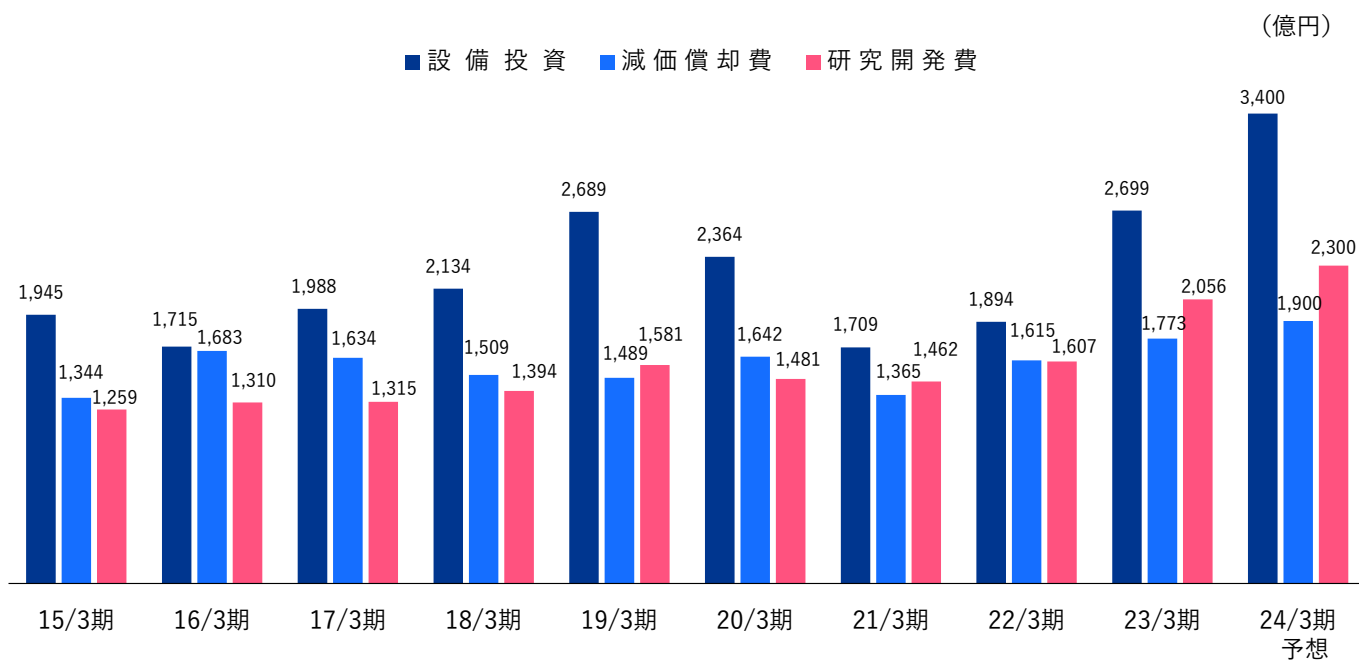
マリン事業 売上高・営業利益推移 (億円)



	通期予想			前期実績	前期実績比		営業利益 為替影響	
		今回 下期前提	前回 通期予想		増減		感応度 ^{※2}	影響額
ユーロ	152円	150円	148円	141円	+11円	+7.6%	+25億円	+188億円
メキシコペソ	8.10円	8.06円	7.57円	6.91円	+1.19円	+17.1%	+9億円	+158億円
ポンド	175円	173円	171円	163円	+12円	+7.4%	+8億円	+61億円
米ドル	141円	141円	134円	136円	+5円	+4.0%	+13億円	+52億円
インドルピー	1.72円	1.71円	1.64円	1.70円	+0.02円	+0.9%	+36億円	+31億円
南アフリカランド	7.48円	7.40円	7.17円	7.99円	▲0.51円	▲6.4%	+5億円	▲33億円
パキスタンルピー	0.49円	0.49円	0.48円	0.61円	▲0.12円	▲19.7%	+2億円	▲47億円
その他 ^{※1}	—	—	—	—	—	—	+14億円	+40億円
営業利益為替影響額 合計							+113億円	+450億円

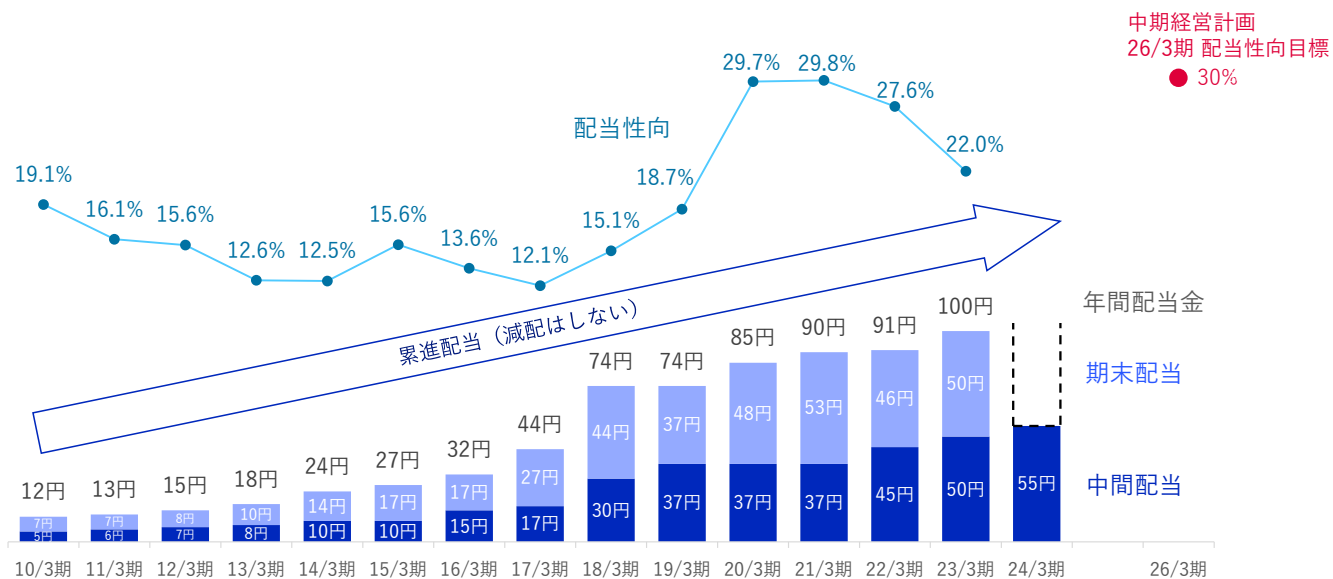
※1 その他…影響額+40億円のうち、ポーランドズロチ+22億円、インドネシアルピア+8億円 ほか

※2 感応度…各通貨のレートが前期実績から 1% 円安方向に動いた際の営業利益影響額



株主還元 | 一株当たり配当金

中間配当 **中間配当 55円**（前期比5円増配）：過去最高額
 自己株式 200億円（3,768千株）を取得（還元性向8.3%相当）

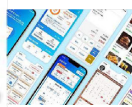


- 11月に、「統合報告書2023」「サステナビリティレポート2023」を発行





世界中、
フクフクの、
ア-サ-を。
JAPAN MOBILITY SHOW 2023





将来予想に関する注意事項

- このプレゼンテーション資料に記載した将来予想は、現時点で入手可能な情報及び仮定に基づき当社が判断したもので、リスクや不確実性を含んでおり、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。
- 実際には、様々な要因の変化により大きく異なることがありえますことをご承知おき下さい。
- 実際の業績に影響を及ぼす可能性がある要因には、主要市場における経済情勢及び需要の動向、為替相場の変動などが含まれます。